

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 十日町市における高齢者の学習と社会参加
—「明石学級」の事例から—

4.5

- 2 トピックス 年頭あいさつ
- 3 視点 協働
- 3 ひろば 『ひろっぱ』
- 6 実践記録シリーズ 「健康体運動教室」～生活の質の向上をめざして～
- 7 サークル交流 Old and New (妙高市) / さわやかグリーンクラブ (関川村)
- 7 素顔拝見 野村 直美さん (加茂市) / 服部 充子さん (刈羽村)



弥彦神社参詣

表紙解説 おやひこさまと親しまれる越後一宮彌彦神社は毎年多くの方が初詣に訪れ無病息災・五穀豊穡を祈願しています。

新年あけまして おめでとうございませう



会長
三保恵美子

「朝日が昇ってもうどれくらい経っただろうか。公民館開館の時間になって大勢の地域の人々が入ってくる。口々に「おはようーおはようー」と職員に声をかける。

「おはようございます。今日は何の学習ですか。」「私たちがのまちづくりを進めるために、都市計画の話を職員から聞いて、みんなで理想のまちづくりについて話しあうんだ。こんな会合も公民館が使えるからありがたいね。」

「私は文学の講座。今月から源氏物語が始まったの。うんと勉強して、地域の子どもたちに古典文学の素晴らしさを教えてみたいな。」

「子育てに疲れちゃったの。育児サークルに参加して、おしゃべりしたりして、ストレスを発散しようと思ってね。」

この子も公民館の保育室で、お友達と遊ぶのを楽しみにしているの。このサークルで育児の不安からどんなに助けられたか。」

住民の目はこのまちの未来への希望で生き生きと輝く。館長は学習に活動に出入りする人々の姿に目を細めながら、「皆さん、公民館を大いに使ってください。頼れる職員がたいてくさんいます。いつでも声をかけてください。予算もたっぷり、施設も立派ですよ！必要な資料も潤沢、講師もたくさんいらっしやいます。大いに学習してください。」と見栄をきる。昼の公民館にはお年寄り、赤ちゃん、子育て中の方々、リタイアしたばかりのシニア、午後には学校帰りの子どもたち、高校生が立ち寄って、夜には勤め帰りのサ

ラリーマンや一日の仕事を終えた方々の学習であふれる。ボランティア室は学習をサポートしたり、建物の管理を手伝ってくださるボランティアの方々、遠くには富士山が雄しくそびえている。明日は水彩画グループが写生に出かける予定だ。どこから聴の鋭い声がある。待てよ、新潟から雄雄しい富士山って見えなかった？エエッ！も、もしかして…次に出てくるのは「なすび」?!と気づいたところで目が覚めました。

あけましておめでとうございませう。皆様にはどんなお正月でしたでしょうか。県内の市町村合併もある程度姿が見えてきて、今年はその連合会の財政確保の問題やブロック割りの再編成などの対応が必要になっていませう。財政や人的配置が厳しくなっている公民館で、いつもありがたいと思うのは地域の方々のご支援です。自分の空いた時間の殆どを公民館事業の企画運営にボランティアとして力を貸してくださる方、青春時代に公民館で学習して、今、地域づくりの先陣となつて活躍している方、公民館で学び、今度は教える側で活躍している方など、皆さん公民館の必要性を十分に認識して、公民館を支えてくださっています。社会教育の黒子として、公民館運営審議会委員の皆さんの提言をいただきながら、人々の公民館での学習をサポートし、活動を支えるのに公民館職員は大きな力を発揮しています。公民館は地味な仕事。だからこそ、今年には公民館の必要性、職員の仕事を大いにアピールしていきませう。

この一年が、皆様のご活躍により、輝かしい年になりますように祈念しております。

あけまして おめでとうございませう

昨年は、いろいろとお世話になりました。

今年も県公連にとりまして、大変厳しい年となりそうですが、皆様方のご支援・ご協力のほど、何分よろしくお願い申し上げます。

平成18年元旦

新潟県公民館連合会役職員一同

視点

協働



佐渡市真野地区公民館長 佐久間完治

平成の大合併によって一市九町村が一つの市になった私達の市でも、合併二年が経過し、いよいよ合併による真価が問われる年を迎えることとなった。しかし、公民館活動を支える人員も財政も決して良くなったとはいえないのが現状である。こうした状況の中で、公民館が本来の目的をどうしたら達成できるかが差し迫った課題である。

私は、このように現状が厳しくなればなる程、公民館と地域の人達の協働を大切に公民館運営を考えていかなければならないと考えている。以前、地域で問題になった「地域の伝統芸能の継承」について考えてみても、現在のように地域住民、子どもをまきこんだ事業になるまでには、地域芸能団体、学校の協力は勿論のこと、そこまで地域の人の気持ちをつなぎ、高めていった公民館職員の地道な努力と地域関係者の理解と協力があつたことを忘れることができない。職員も地域の人も、一つ心になって地域の課題解決に取り組む、そんな公民館活動を期待したい。

H O T N E W S 掲 示 板

平成17年度第2回編集委員会開催

平成17年12月13日(火)
於新潟県生涯学習センター405号室



- 1 開会あいさつ 三保会長
- 2 内容
 - (1)新潟県公民館月報平成18年4月号～9月号の特集テーマについて
 - (2)新潟県公民館月報の今後の編集方向及び購読ちらしの作成について
- 3 閉会あいさつ

別紙資料

- (3)「新任職員のための参考資料」作成について
 - ①講座開設のアドバイス
 - ②講座運営Q & A
 - ③事例集
 - ④資料(新潟県立生涯学習推進センター)
 - ⑤その他 今後の段取り

2月に刊行予定

ひろっぱ

加茂市公民館運営審議会委員 井上亞機雄



私達の子どもの頃は学校から帰り、家にカバンを置き「ひろっぱ」に集まり、暗くなるまで遊んだ。今はどうでしょう！家でテレビゲーム遊び。最近は特に陰気ないじめ、殺傷事件の低年齢化が進み、思いもよらぬ事件の発生。これらの裏にある躰など家庭教育の大切さは何時の時代でも必要不可欠。

中、子どもの居場所づくりの「キッズ・スクール」事業も開催し、子ども達と楽しく関わっている。委員の方々は、地域において子どもの挨拶運動を含め、登下校の「不審者防犯パトロール」にも活躍されて、子どもとの関わりを持っている。毎年の公民館作品展にも加わり、実行委員として「知行合一」で知恵を出し、実践行動する方向に変わっている。委員自身の「ひろっぱ」づくりも進行中である。



そこで、当公民館運営審議会委員も家庭教育を学び、地域にも発信すべく家庭教育部会を公民館の協力を得て設立し、家庭教育サポーター養成講座を開講しまた、現在「ひろっぱ」のない子ども達の生活環境や、両親の共稼ぎ等の社会の

高齢者の学習と社会参加

—「明石学級」の事例から—

との出会いが生まれること——それこそが素晴らしい生きがいにつながると思います。

それは、「私たちのおもいで」や「高学会だより」に寄せられた文章の中からもうかがい知ることが出来ます。

「明石学級に仲間入りして、早くも3年目を迎えました。針仕事の苦手だった私は、手芸には誠に縁がなかったように思います。(中略)一つの作品が出来上がると、今までに覚えのない嬉しさと喜びとで、人生の豊かさを感じます。これからも健康に気をつけながら、通い続けたいと思います。」

これは、手芸コースで学んでいる方の文章です。



書道コースでは、一人ひとりの力に合った個人指導が大切です。

4 これからの明石学級の課題

明石学級の課題をいくつか挙げてみます。

第1に、多様化するニーズにあったコースの設定です。

受講生の要望を聞きながら毎年少しずつコースの種類を変えています。近年はコンピュータ関係の希望が増えています。しかし、1人の講師が受け持てる人数、コンピュータの台数から、定員を設定せざるを得ず、毎年何人か申し込みをお断りしています。

学級生からの要望があったところで、公民館の生涯学習事業として、明石学級のコースとして取り上げるべきものかどうか、今のコースの継続の可否も含め、再検討が必要に思います。

次に、経験年数や個人の技術の差のどこに学習レベルを合わせるかが問題となっています。

現在、コース1年生から10年生以上の方が同じコースで学習をしている場合があります。各コースをレベル別に分け、一人ひとりのレベルに合った学習を保障出来ればよいのですが、予算と公民館の部屋数にも限りがあります。



公民館まつりでの工芸コース、手芸コースの作品展示。

コース学習を受講者のニーズとレベルに合わせて充実させていくには、地区公民館の有効活用や役割分担のほか、公民館施設設備の拡充も視野に入れながら検討しなければなりません。

第3に、いかにして参加者の自主性を高めていくかということです。

今までの公民館の姿勢にも問題があったのかも知れませんが、現在の学級生は、コースや自治会の役員を進んで引き受ける、明石学級で学んだことを社会に還元していくといった意欲が弱いように思われます。何のために学んでいるのか、何のための自治会なのか、全体学習会や高学会活動の中で再確認していく必要があります。新年度から高学会役員の出選基準など改正し、参加者の声を反映しやすい組織にする予定です。

第4に、学習成果や個人の経験、知識、技術をどのように社会に還元していくかということです。

今年度、高学会の会長から社会参加・社会還元積極的に取り組みたい旨の提案がありました。今は要綱整備と学級生への周知の段階で、実際動き始めるのは18年度からになりそうです。これは高学会で取り組んでもらいたい事業ですが、初めは公民館のサポートも必要になるでしょう。

当市の17年4月末の高齢化率は28.8%で、今後ますます高くなります。また、2007年以降は、仕事にも「遊び」にも前向きに取り組む元気な高齢者が公民館にやってくる可能性があります。そうした方々は、今のような明石学級に溶け込んでくれるのでしょうか。あるいは、逆に明石学級を変えていくエネルギーになるのかもしれませんが。

いずれにしても、明石学級に参加し、元気でチャームングなお年寄りになり、年を重ねれば重ねるほどしなやかでみずみずしい生き方が出来るように、公民館もお役に立ちたいと考えています。

特集

十日町市における高



十日町市中央公民館
主査 蔵品 豊子

1 明石学級の歴史

「明石学級」は、昭和48年に当市中央公民館の生涯学習事業「老人講座」としてスタートし、今年32年目を迎えました。

昭和55年から、各コースの学習のほかに全員が一堂に会する「全体学習会」を設け、より学習内容の充実を図るといった現在のスタイルに変わりました。昭和62年に老人講座から「高齢者学級」となり、平成9年からは十日町市の伝統的織物である「明石縮」から名前を取って、明石学級として現在に至っています。

2 明石学級の学習内容

明石学級は、高齢者に新しい知識や技能の習得と、その発表や社会還元のお場を提供することによって、健康を維持し、生きがいを高めて、生涯にわたって学び続けることの大切さを知ってもらうことを目的としています。

対象者は市内に在住する60歳以上の高齢者で、参加者数は352人、最高齢は90歳です。

この学級は、自分の興味関心のあるコースを選んで参加する「コース学習」を主にしています。

平成17年度は「書道」「健康体操①、②」「合唱」「パソコン入門、初級」「工芸」「手芸」「園芸」「料理①、②」「生け花」「写真」「俳句」「絵手紙・ハガキ絵」「ダンス」「パソコン中級①、②」「インターネット①、②」の20コースを設定しました。「写真」から「インターネット①、②」までの8コースは「自主グループ」への移行を目指して、講師謝礼の一部を参加者から負担してもらっています。

コース学習は、2時間ずつ月に2回、年間で20～22回開かれます。学習日は火曜日から金曜日までの午前、午後に分散していて、コースの複数受講が可能です。延べ参加者数は530名ですから、平均すると1人あたり1.5コース受講していることとなります。3コース以上受講している方も多く、最多は1人5コースです。



パソコンコースでは自分のコンピュータを持ち込んでいます。機種や設定がまちまちなので指導者は大変。

また、学級生全員で学び楽しむ機会として、月に1回「全体学習会」を行っています。今年度は、健康講話、軽運動、防災、3セク鉄道を通して地域経済の状況などについて学びました。9月には、「館外学習」として、100名余りの学級生が上越方面に足を伸ばして見聞を広めてきました。さらに、開級式、閉級式には、市外講師をお招きし、節目にふさわしい講演をいただいています。

もう一つ明石学級の大事な活動として自治会活動があります。自治会は、「明石学級高学会」と称し、地区ごとに編成されているブロックの中から役員を選出し、全体学習会や諸行事の企画を行います。公民館まつりにおけるバザー、廃油を利用した石鹸づくりや、学習記録「私たちのおもいで」、年数回の「高学会だより」の発行なども高学会の事業です。

3 明石学級の意義とは

このような明石学級での学びと活動を通して、学級生は何を得て、どんな意義を見出しているのでしょうか。

まず挙げられるのは、コースで新しい知識や技術を習得し、活用出来ることです。コース選択にあたっては、従来の趣味を深める方もいれば、新しい分野に挑戦する方もいます。特にパソコンコースにおいては、自前のコンピュータを持ち込み、少しでも早く習得しようと真剣な学習風景が繰り返られています。コンピュータ技術の習得は、若い世代や、子ども・孫との交流に役立っているようです。

2つ目に生きがいがある、あるいは高められることです。定年になった途端に目標を失い、途方にくれる人もいます。明石学級の活動を通して、知識・技術を得、見聞を広めること、新しい仲間

実践記録

94

シリーズ

「健康体運動教室」～生活の質の向上をめざして～

糸魚川市教育委員会生涯学習課青海生涯学習係 主査 高橋 正章

1. はじめに

この教室は、平成15年度から旧町の健康診断・各種検診結果においてボーダーライン上にある住民また、中・高齢層の男女、運動を行いたい人を対象に、毎週2回酸素運動と筋力トレーニングを中心に身体活動を行う教室として「健康体」と名づけ生涯学習係が担当し、開催しました。



2. 募集した内容

対象者：中・高齢者の男女 運動をやりたい人

人数：30名

指導者：

生涯学習係 主査 高橋 正章
(スポーツプログラマー)

場所：

青海町民会館体育室(現在 青海生涯学習センター)・サンドルームおうみ(屋内プール)等

曜日と時間：毎週月・水曜の

午前10時～11時30分

期間：年3期

4月～7月 9月～12月

1月～3月 8月はお休み

3. どんなことをやったのか

各期の初日と最終日に体力テストを行い、本人の体力を確認してもらいました。

天気の良い日は、まず体育館で準備体操、外へ出て約40分～1時間のウォーキング、再び体育館に戻り器具を使用しない筋力トレーニング、そして柔軟・ストレッチ

を行い終了しました。ウォーキングにも各自の速さがあるので、あくまでも最初は自分のペースで歩くように指示しました。

水中運動はプールにて、おもに歩かせながら、いろんな体の個所を動かすようにしました。

4. 参加状況

平成15年度

1期 40名 2期 40名

3期 62名

平成16年度

1期 73名 2期 77名

3期 73名

平均年齢55.8歳

当初、募集人数は30名でありましたが、たくさんの申し込みがあったことと、指導者が一人でも対応できると判断し、随時入会も可能としたところ、上記の人数となりました。

5. 参加者からのアンケートより (参加しての感想)

・毎回楽しみに参加させていただきました。心身ともに健康で過ごせたのは、この教室のお陰だと感謝しています。生活にリズムができ、ストレス発散に最高です。

・主婦であり、お年寄りと一緒にいたり、孫がいたり、他の行事と重なったりと休む日もありませんでしたが、体操に参加しての帰り道、心身共にすっきりしていつも来て良かったと思っていました。私が、「うつ」になるのを食い止め手助けをしていただいたように思います。

・週に2回、仲間や先生と会って運動をするのが楽しくて、それを励みに日々の生活を過ごしています。自宅ではなかなか一人で運動できませんが、仲間がい



ると頑張れますよね。様々な運動ができて良かったです。

・誰でも声をかけて戴き、顔見知りにもなれて、本当に良かったと思います。

・普段人と接することがあまりないので、たくさんの人と挨拶できるのがうれしいですし、気持ちもなごやかになります。

・今まで体操には縁のない生活をしてきたので、教室に入るためらいがあったのですが、マイペースでやれるので、とても安心して出来、教室に参加して良かったと思います。

・走るということ、自分にも出来る収穫だった。

・教室は、私より若い人が沢山いて、気分まで若返ります。楽しい!!

6. おわりに

青海町は、3月19日に合併して糸魚川市になりました。

この教室は15年度より開始して、3年目になります。2年間は、教育委員会生涯学習課生涯学習係が担当していましたが、17年度からは、教育委員会生涯学習課スポーツ振興が担当しています。



夢をかたちに

Old and New
妙高市社会教育関係団体

私たちのサークル名には、「大人の知識を次世代育成に生かし、未来ある若者の活力を地域活性化につなげる」という意味が込められています。

旧市町村の芸能活動からエネルギーを感じ、妙高市となつてから、新しいイベントがでないかと思ひ、会員募集したところ、多くの仲間が集まり、動き始めました。今では、つながりが広がり、元氣・勇気・やる気のある会員が、年齢・性別・国籍など関



係なく、誰もが楽しめる音楽・芸能・交流活動を企画運営しています。

これまでの経験と反省をもとに、清く・正しく・楽しいをモットーに努力し、妙高市を盛り上げていきたいと思ひます。

Old and New
代表 丸山 由利子 記



花に誘われ自立へ一歩

さわやかグリーンクラブ

誕生は今年の五月、三年間公民館生涯学習ガーデンングでお世話になり三月卒業、仲間七人でクラブを作り自立、三年間の恩返しに観光誘客で



関川村の自立に一役と発足した。日本一の国指定文化財渡辺邸の一隅に植物展示棚を作り、即売所を出させてもらった。今までに習った各種の植物を持ち込み、自分で価格をつけて販売する。村の木はミミジ、花はユリ等を、主として文化財の庭に植生するタラヨウや樫の本の苗木等を作り、観光客のニーズをさぐり、今後の進め方を検討しています。

関川村・さわやかグリーンクラブ
小野 シヅ子 記

昨年4月に会計課から公民館へ来て早や2年、我が加茂市公民館職員の方の紅一点、野村直美さんを紹介致します。

現在、家庭教育事業や各種初心者教室の担当として、パワー全開で2年目は思えぬほどバリバリ活躍中です。

また、女性ならではの視点から企画される事業内容には「ハッ」と気づかせられる場面

加茂市公民館
主査 野村 直美さん



も多くあり、とても参考になります。

さらに、持ち前の明るい笑顔と柔らかい言葉づかいに、小さな子どもからお年寄りまで大人気。

家に帰れば二児の優しいお母さん。子どもさんへの愛情、母親としての想いが仕事にも生かされているのでしょね。(素晴らしい!)

(加茂市公民館 主査 小柳豪志 記)

紅一点、今年度より文化振興係に異動となったハットリさん。口癖は「腹減った〜」と1日何十回も言うこと。その口癖は毎年、「ラピカ」の流行語大賞を獲得している。そんなハットリさんの嗜好品はお菓子。だが、太ることなく嫌味なほど痩せている。ニンニン、いや、ガリガリなほどである。しかし、スキー1級の腕前を持ち、冬はスキー三昧の日々を送っている。車にも興味があり、ス

刈羽村生涯学習センター「ラピカ」
文化振興係 主事 服部 充子さん



ポーツカーで颯爽と出勤する。アクティブなハットリさんに弱点はない。強いて言うならフルーツが食べられないところだ…以上、プライベートを並べてみましたが、いかがでしたでしょうか??こんなB型自由人のハットリさんは当店お勧めの一品です。追伸、もちろん仕事もバリバリできますよ(笑)

(刈羽村生涯学習センター「ラピカ」
スポーツ振興係兼文化振興係 主事 小林孝至 記)

素顔
拝見

Network ネットワーク

第43回東京都公民館研究大会開催

いま岐路に立つ公民館～あらためてその役割を問う～

- 開催趣旨 (省略)
- 主催 東京都公民館連絡協議会
- 後援 (省略)
- 参加者 市民、公民館運営審議会委員、公民館職員、社会教育関係者、生涯学習関係者、その他本研究大会に関心のある方
事務局長オブザーバー参加 参加数422名
- 日時 2005年(平成17年)12月11日(日)
午前9時30分～午後4時30分
- 会場 全体会 稲城市中央文化センター
課題別集會 稲城市中央文化センター及び周辺施設と市内公民館
- 日程 9:30～10:00 オープニング・開会式典
10:00～11:30 全体会
11:30～11:35 次期大会事務局市あいさつ
11:35～13:00 移動・昼食
13:00～16:30 課題別集會
- 開会式典
(1)ウエルカムtoいなぎ
(2)開会のことば 東京都公民館連絡協議会副会長 阿部 君子
(3)主催者あいさつ 東京都公民館連絡協議会会長 関田 賢治
(4)来賓あいさつ 東京都教育委員会教育長 中村 正彦
稲城市市長 石川 良一
(5)歓迎のあいさつ 稲城市教育委員会教育長 松尾澤 幸忠
- 全体会 テーマ「いま岐路に立つ公民館～あらためてその役割を問う～」
鼎談 奥田 泰弘氏
(中央大学教授)
武川 秀一氏
(東大和천시公民館運営審議会会長)
伊東 静一氏
(福生市公民館松林分館職員)
- 課題別集會



恵贈資料紹介

「むらかみ第25号」「さんぼく第21号」

県北の地から「文芸むらかみ」第26号、「文芸さんぼく」第21号が恵送されて参りました。内容はいずれも、発刊に寄



せて、随筆第一部、短歌、俳句、詩・川柳、随筆第三部等から構成されております。ただし「文芸むらかみ」では、平成十七年度村上市中学生短

文芸むらかみ編集委員会
山北町教育委員会

歌作品展示会入選作品と、「十五夜月見の会」小学生俳句入選作品が掲載され、年齢層の拡大をはかっているのが特徴的です。市町村合併等で、このような文芸誌が消え去る中、継続刊行に努められている両市町の関係者に敬意を表する次第です。

event information

社会全体で子どもを大きくむ運動
キッズフレーズが決まりました。

11月号まで子どもを大きくむ運動のキッズフレーズを募集しよう。募集の中心は7歳から16歳までの90名のうち143名が応募がありました。募集期間は平成17年12月15日までです。応募は次の4点に注意してください。

①大賞賞 一人ひとりが地域の子育てサポーター 石田町 内山 勉 様
②佳作 育てよう！地域のたから達 奥田町 小池 茂 様
あの子もこの子も地域の家族 赤松町 朝比奈智子 様
あなたから子どもを大きくむ第一歩 大妻連市 石井 清次 様
育てよう！

この運動は、地域全体で子どもを大きくむ運動のキッズフレーズとして応募してください。応募は、募集期間中に、募集要項の応募用紙に記入し、応募先まで郵送してください。

応募先：大妻連市 社会教育課 公民館推進課
〒950-8724 新潟市川端町2-9-9 新緑会館内
TEL:025-224-6073 FAX:025-224-6074

課題別集會名	助言者	事例報告者	司会者
1 社会教育施設と指定管理者制度	朝岡幸彦 (東京農工大学 助教授)	伊佐 英夫 (西東京市田無公民館職員) 他に町田市、東村山市の事例を予定。 (報告者調整中)	近藤 均 (西東京市保谷公民館職員)
2 職員vs公運審 ～本音トーク 2×2～	佐藤 進 (中央大学講師)	佐野 亨 (国分寺市立志ヶ原公民館運営審議会委員長) 久保田 幸子 (東大和市公民館運営審議会委員) 後藤 邦夫 (東大和市立徳山公民館職員) 井上 日出夫 (福生市公民館職員)	林 和夫 (国分寺市立光公民館職員)
3 知的障がい者の教室から人権を学ぶ	藤松 忠雄 (国立市子ども家庭支援センター職員)	グループ討議及び全体による討議。	榎方 直夫 (国分寺市立本多公民館職員)
4 女性の学びと公民館 ～「気づき」からひろがり、ふかまりへ～	金 愛 理 (白樺学園短期大学 助教授)	吉本 淳子 (国分寺市公民館利用グループ「チューリップ」) 山田 多喜子 (稲城市公民館利用グループ「スーホの会」)	百瀬 道子 (国分寺市立もとまち公民館職員)
5 異世代交流事業をとoshて得たものは！	星野 一人 (社会教育・生涯学習研究所会員)	国分寺市「異世代事業」実行委員会 野中 寿子 (若造の十字の指導者) 倉田 朱美 (親子キャンプ指導者) 山田 真人 (国分寺市立本多児童館職員)	星野 一人 (社会教育・生涯学習研究所会員)
6 地域を豊かにする公民館 ～市民と地域の連携を求めて～	伊東 静一 (福生市公民館松林分館職員) 中島 美都子 (国分寺市立本多公民館職員)	伊佐 英夫 (福生市公民館松林分館職員) 中島 美都子 (国分寺市立本多公民館職員)	原田 富雄 (稲城市公民館運営審議会委員長)

あ けましておめでとーご
あ げます。
と 昨年は、天災等の大災害もなく、無事県公連事業を遂行できたことを喜んでお
が ります。
き 市町村合併も、いよいよ最終段階を迎えました。郡市公連の再編、市町村負担金の賦課問題等、問題が山積しております。皆様方の全面的なご支援、ご協力を切望しております。
(鈴木 記)